

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 5 月 25 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26245018

研究課題名(和文) ボーダースタディーズによる国際関係研究の再構築

研究課題名(英文) Reconstructing International Relations through Border Studies

研究代表者

岩下 明裕 (IWASHITA, Akihiro)

北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・教授

研究者番号：20243876

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 30,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、主権国家間の関係やパワーに基づいた従来からの国際関係論の分析手法を乗り越え、国際関係を規定する本質的なファクターに焦点を当てることにより、境界地域の「生活圏」を足場とした「新しい地政学」の成立に向けた一助とすることを目的とした。毎年国内外でのセミナーやシンポジウムで研究成果を共有し、書籍『入門国境学：領土・主権・イデオロギー』(中公新書)やJapan's Border Issues: Pitfalls and Prospects (Routledge)などを刊行した。またボーダーツーリズム(国境観光)についても、旧来にない新たな成果の地平を切り開いた。

研究成果の概要(英文)：This research project has sought to move beyond the analytical methods used in international relations by focussing on the fundamental factors that define international relations, and to establish a new way of studying political geography that is based on the spheres of daily activity of people living in border regions. The project has been publicized abroad through panels organized annually with overseas researchers, and through publication in the Principal Investigator's Introduction to Border Studies: territory, sovereignty, ideology (Chuko Shinsho-in Japanese), and Japan's Border Issues: Pitfalls and Prospects (Routledge). Regarding border tourism, it has opened new ground for the field.

研究分野：ボーダースタディーズ(国境学)、国際関係

キーワード：国境地域 地政学 政治地理学 生活圏 社会構築 透過性 領土問題 ツーリズム

1. 研究開始当初の背景

境界現象とは、人間が生存する実態空間そのもの及びその人間の有する空間及び集合認識のなかで派生する差異化（つまり、自他の区別）をもたらすあらゆる現象を指し、いわば境界研究（ボーダースタディーズ）はその形成及び変容ならびに紛争回避メカニズムの解明にある。

現代社会においては、実態空間としては国と国の接点（国境）や民族と民族が対立あるいは協力する様々な衝突点が存在する。そしてそのボーダーに分断されて、あるいはボーダーを跨いで生活する人々は、その実態に左右されながらも、ある場所では自他の認識を鮮明に、別の場所では曖昧なグラデーションをもって表象する。

もとよりこれらの境界は実態でも認識でもズレを抱え込みながら、歴史のなかで再生産され続ける。境界研究はこのような境界現象にかかわる問題をどのように読み解くかという問題意識を共有しつつ、具体的なエリアにおいて問題の存在を探り、その問題の形態を考察し、解決方法を模索し、その実現に向けて提言をも行う学問領域である。

世界には、北米西海岸で誕生し欧州へ拡大しつつある Association for Borderlands Studies (ABS)、冷戦終結時に欧州で生まれ南米・アジアへと展開した Border Regions in Transition (BRIT)、世界の国境・境界画定のデータを集積し、実務者を交えて研究提言を行うダラム大学 International Boundaries Research Unit (IBRU)などの国際組織が存在するが、日本及び東アジアの研究活動は十分に組織化されていないでいた。

北海道大学グローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアと世界」(平成21-25年度)により、基礎が固まった境界研究の知見をもとに、本研究は、地理学、社会学、法学、文化学など多領域に跨がる境界研究の知見や成果を特に国際関係の分野に応用することを狙いとした。

境界研究が国境・境界地域の現場を重視したミクロな手法を基礎とするかぎり、世界の政治を眺望する国際関係研究とはある意味で距離感ある存在であることは、申請当時、否めなかった。しかしながら、研究代表者は、新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」国際関係班の共同研究により、国境・境界問題が国際政治の力学を規定する深度、翻ってパワーとパワーの関係性や同盟が国境・境界問題の「紛争化」「凍結」「解決」などに与えるインパクトを見いだすことができている。それに伴い、本研究は、国境・境界問題と国際関係の相関性及び相乗性を本格的に分析する挑戦的

なものとして位置付けられた。

2. 研究の目的

国際関係研究は様々な分析ツールの開発やその適用成果の上に成立しており、もはや主権国家間の関係を軸に、パワーを主要としたアクターとし、パワーの相関によって世界を読み解くアプローチはいささか古典的かもしれない。しかしながら、今なお、ワシントンを始めとする対外政策コミュニティの多くは、もちろん、宗教やイデオロギー、民主主義などの価値、相互依存や国際統合、コンストラクティビズムの有意性などを意識しつつも、パワーの相関に基づいた分析に依拠する傾向が強い。従って、国家間関係の分析に焦点を当てる手法はまだまだ国際関係の現状と展望を読み解くうえで十全たる有用性をもっていることは否定できない。

しかしながら、パワーの相関を軸に国際関係の様態を解析するとき、捨象されるもののなかに国際関係を規定する本質的なファクターがいくつかあると思われる。その一つが国家間の空間近接性、つまり、国境・境界の共有の問題である。これまでの国家間研究においてこの空間近接の問題はかなりの程度、無視されてきた。

中国やロシア、インドなど大陸で近接空間を有する国家間の関係は、明らかに別の大陸のパワー、例えば米国との関係性とは異質のものである。にもかかわらず、これまでの研究はこの空間性の相違、あるいは同質性を十分にはファクターとして組み込んでこなかった。

そこで本研究では、空間近接の問題を、海や陸といった地理学的な文脈に拡大するとともに、空間を越えるモメンタム（空域や宇宙などのパワープロジェクション）、空間をつなぐモメンタム（経済的利益の共有、相互依存、統合など）などを分析枠組に取り入れながら、国際関係を規定する新たなファクターの分析を展開した。さしあたり、研究フィールドをアジア・ユーラシアにおくが、北米・欧州に関わる国際関係研究者との協働により、普遍的なモデルづくりの端緒を目指した。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者・研究分担者・連携研究者が理論とフィールドの双方に目配りをしながら、地域研究の手法に則りつつ、同時に政治学や地理学の理論的アプローチを用いて、重層的に研究を行った。方法論としては、境界研究・政治地理、パワーと同盟、経済と相互依存の三つの観点を重視し、それぞれのフィールドとして、中央ユーラシア、北東アジア、東南アジア、南アジア、日本、北米、EUなどを上記の観点から分析した。

4. 研究成果

本研究は、主権国家間の関係やパワーに基づいた従来からの国際関係論の分析手法を乗り越え、これまで捨象されてきた国家間の空間的接近性、国境・境界の問題という国際関係を規定する本質的なファクターに焦点を当てることにより、境界地域のミクロな「生活圏」を足場とした「下からの」政治地理学、「新しい地政学」の成立に向けた新しい視座を見出すことに成功した。

理論的な分野では、毎年、国内向けのセミナーを札幌、東京、大阪、福岡などで、国際シンポジウム・セミナーも札幌、小倉、福岡で開催した。これを通じて、旧来の地域研究のたこつぼ的な状況を乗り越える、分析の共通ツールを発見した。それが1)境界(地域)の変化にかかわるタイムラインの抽出、2)国境(地域)における透過性の位相の比較、3)国境(地域)に対する社会構築のレベルと様態の比較、といった枠組であった。これらのツールの共有とそれに基づいた分析の結果は、海外でも、Association for Borderlands Studiesの年次集会(米国)やBorder Regions in Transitionのシンポジウム(ドイツ・デンマーク)などの場で共有され、これはパネルやセッションを海外の研究者と一緒につくるプロセスのなかで展開した。

書籍としての成果は研究代表者による『入門国境学：領土・主権・イデオロギー』(中公新書)やJapan's Border Issues: Pitfalls and Prospects (Routledge)が代表作となるが、それ以外にも様々な英文和文雑誌で成果は公刊されている。また国境地域の「生活圏」これをもとにしたボーダーツーリズム(国境観光)についても(境界自治体で構成される)境界地域研究ネットワーク JAPAN 及びNPOなどとの連携により、本研究においては、旧来になかった新たな成果の地平を切り開いた。その成果の代表例が『ボーダーツーリズム』(北大出版会)である。

また本研究の成果は、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター・境界研究ユニット(UBRJ)のweb上で日英両言語で公開されている。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計46件)

Akihiro Iwashita, Borders Inside and Outside Alliance: Russia's Eastern Frontiers during the Cold War and After Journal of Borderlands Studies, Refereed, Vol. 32, No. 1, 2017, 55-70.

岩下明裕、ボーダースタディーズからみた世界と秩序、融合と再創造の世界秩序(村上勇介、帯谷知可編) 査読有、2016

年、24-28。

川久保文紀、北米国境のテクノロジー化:「スマート国境」の構築とその限界、国際政治、査読有、Vol.179、2016年、83-95。

田村慶子、移民・ジェンダー・NGO:シンガポールの政治変動、地域研究、査読有、Vol.15、No.1、2015年、178-192。

Shinichiro Tabata, Emergence of Regional Powers in the International Financial System, Refereed, Eurasia's Regional powers Compared: China, India, Russia (Shinichiro Tabata eds.), Routledge, 2015, 47-63.

[学会発表](計83件)

Akihiro Iwashita, A New Era of Geopolitics, Association for Borderlands Studies, 2017.

Machiko Hachiya, The EU-Turkey Relations on a Muddling Ground, The EU Studies Association Asia Pacific, 2017.

Machiko Hachiya, Japan's Civic Ombudsman: Expertise of Civil Societies, International Political Studies Association, 2016.

Koji Furukawa, Activating Japan's Borderlands, Association for Borderlands Studies, 2015.

Takashi Yamazaki, The Spatial Control of "Vices" in the U.S. Military Outpost, IGU Moscow Regional Conference, 2015.

[図書](計26件)

Akihiro Iwashita, Japan's Border Issues: Pitfalls and Prospects, Routledge, Refereed, 2018, 144 (paperback).

岩下明裕、入門国境学、中公新書、2016年、244。

[その他]

ホームページ等

<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/ubrij/>

<http://cafs.kyushu-u.ac.jp/borders/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岩下 明裕 (IWASHITA, Akihiro)
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・教授
研究者番号：20243876

(2) 研究分担者

古川 浩司 (FURUKAWA, Koji)
中京大学・法学部・教授
研究者番号：00340183

田畑 伸一郎 (TABATA, Shinichiro)
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・教授
研究者番号：10183071

八谷 まち子 (HACHIYA, Machiko)
九州大学・法学部・特任研究員
研究者番号：40304711

田村 慶子 (TAMURA, Keiko)
北九州市立大学・法学部・教授
研究者番号：90197575

(3) 連携研究者

川久保 文紀 (KAWAKUBO, Fuminori)
中央学院大学・法学部・教授
研究者番号：00545212

山崎 孝史 (YAMAZAKI, Takashi)
大阪市立大学・文学部・教授
研究者番号：10230400

山根 聡 (YAMANE, So)
大阪大学・外国語学部・教授
研究者番号：80283836

地田 徹朗 (CHIDA, Tetsuro)
名古屋外国語大学・世界共生学部・准教授
研究者番号：10612012

花松 泰倫 (HANAMATSU, Yasunori)
九州大学・持続可能な社会のための決断科学センター・講師
研究者番号：50533197